

# パリの私生活

—12~18世紀のしごと・流行・風俗・慣習—

アルフレッド・フランクラン

全23巻  
・  
A5判



## LA VIE PRIVÉE D'AUTREFOIS

Arts et métiers, modes, mœurs, usages des parisiens du XII<sup>e</sup> au XVIII<sup>e</sup> siècle  
d'après des documents originaux ou inédits, par Alfred Franklin (Paris, 1887–1901)

**Part 1: 服飾と「消費文化」** 全5巻+別冊解説:徳井 淑子(お茶の水女子大学教授) ▶2011年11月  
定価(本体75,000円+税)・ISBN 978-4-86340-102-0・1616 pp.

**Part 2: 料理と食事** 全4巻+別冊解説:平野 隆文(立教大学教授) ▶2012年9月予定  
定価(本体60,000円+税)・ISBN 978-4-86340-103-7・1206 pp.

**Part 3: 学校と子ども** 全3巻+別冊解説:宮下 志朗(放送大学教授) ▶2012年9月予定  
定価(本体45,000円+税)・ISBN 978-4-86340-104-4・984 pp.

**Part 4: 衛生、医療** 全5巻+別冊解説:松村 博史(近畿大学教授) ▶2013年9月予定  
定価(本体75,000円+税)・ISBN 978-4-86340-105-1・1524 pp.

**Part 5: さまざまな日常** 全6巻+別冊解説:福井 憲彦(学習院大学長) ▶2014年9月予定  
定価(本体90,000円+税)・ISBN 978-4-86340-106-8・1848 pp.

Athena Press

# パリ日常生活史の万華鏡

福井 憲彦 ● 学習院大学長

20世紀末から展開した歴史学の刷新は、多様な側面を持つものであった。その特徴の一つは、歴史的過去の日常性のあり方を踏まえて問いを投げかける、という姿勢であった。たとえば、食糧暴動や一揆について問う場合、その時代にさまざまな社会階層に属する人びとが、どのような食生活を日々送っていたのかを知らずしては、十分な理解は届かない。なにも歴史学に限らず、文学作品を読む場合でも同様のことは言えるだろう。ところが、歴史をさかのぼって日常生活のあり方を知ることは、たやすいことではない。かつての文献や図像に表現されたところや道具の類を、丹念にたどる以外に近道はない。

これまでにも、興味深いフランス語文献の復刻を手がけてこられたアティエナ・プレスから、このたびはアルフレッド・フランクリンの手になる「私生活」史のシリーズが復刻される。このシリーズは原著副題に示されているように、12世紀から18世紀までのパリ住民たちの技芸や職業、風俗や慣習に関する、テーマごとの年代順総覧といった趣の、じつに稀有な歴史書である。18世紀までが中心だが、著者本人の生きた19世紀にも若干言及される。この種の書物は、現在ではあまり書き手がない。というのも、中世から近世・近代へと、各種文献を熟知して、どこにどのような記述が入っているかを、事細かに丹念にフォローしていないと、とても記述できない。しかも、そこに解釈を加えて一種の歴史観を提示するかといえば、それよりむしろ、どちらかといえば史料とその内容を列記する形式である。歴史事典の変形版のような趣もある。

実際フランクリンの著作のなかには、13世紀以来のパリの職人世界に関する歴史事典もあって、たいへん重宝なものである。しかし、1906年に刊行されたこの歴史事典よりも、今回復刻される私生活史シリーズのほうが、読み物としては断然面白い。フランクリンという人物は、歴史家というよりも史料考証の専門家であった。1830年にヴェルサイユで生まれ、第一次大戦中の1917年にパリに没したが、はじめはパリでいくつかの新聞の文芸記者として活動し、私は読んでいないが後に小説も書いているそうである。1856年に、パリの有数の歴史図書館であったマザラン図書館で史料係となり、85年からはその事務局長として勤め上げている。かのマザランの蔵書を出発とするこの図書館のコレクションは、各種の領域についてたいへんなものであったから、いわばその宝の山で送られた日々が本シリーズのもとになったのであろうことは、想像に難くない。

どの巻でもよいのだが、動植物大好きな私は、動物たちがテーマの巻を開いてみる。フランクリンは愛犬家だったようで、「14年の間、我が家の忠実で優しい友であった愛犬トビーの追憶に」この巻は捧げられている。かつては犬派と猫派がいたようで、いろいろと時代ごとのエピソードに事欠かない。あるいはパリにおける聖ヨハネ祭に関する記述など、民俗学的な関心をくすぐる記述も含まれている。さすが史料整理を仕事としていた人だけあって、文献注もしっかりしているので、この記述を頼りに原史料にあたることも可能である。いずれにせよ、その使い方は、読み手の関心次第。さまざまな効用が期待できる。なかなか全巻揃いで手に入れることが困難であったこのシリーズが復刻されることは、フランスの歴史や文学、あるいは文化研究に関心のあるものには有難いことである。それになにより、肩肘張らずにふらっと読んでも悪くない。

## 【本シリーズについて】

政治史・経済史から社会史へと向かう歴史学の方法論の流れは20世紀になって一層盛んになり、各種の重要な業績が生まれています。しかし、これより前に、私生活の歴史をテーマにした突出した業績がすでに生みだされていました。それがこの「パリの私生活」です（*La vie privée d'autrefois*、23巻、1887-1901。他に第2シリーズとして、著者の解説が付く補遺的な資料復刻4巻、1897-1902、があります）。

パリ人の社会に限定されていたとはいえ、中世から近世にかけての服飾、食事、買い物、衛生、医学、子どもほか幅広い多数の事項が扱われ、その内容も現代の研究にも基礎資料として用いられているほど質の高い記録・文書に基づいたもので、引用元を示す多数の註が付され、さらに解説説明の補足として原資料からの抜粋が添えられる箇所もあります。これらのうち7タイトルがそれぞれ医学アカデミー、人文・政治科学アカデミー、アカデミー・フランセーズから賞を授けられるなど、当時大きな賞賛を浴びました。

著者アルフレッド・フランクリン（Alfred Franklin）は1830年生まれ。1856年からパリにあるフランス最古の公共図書館、マザラン図書館のスタッフとなり、出世には無欲でしたが85年から事務局長を務め、76歳で引退しました。1917年没。女、犬、たばこ、甘いものに情熱を注いだ人生だったと伝わります。



# キシュラに匹敵する服飾史・風俗史の古典

徳井 淑子 ●お茶の水女子大学大学院教授

ヨーロッパの服飾史を専門とするものが、今なお古典として利用している書物といえば、1875年に刊行されたジュール・キシュラの『フランス服飾史』である。キシュラのこの著作に勝るとも劣らぬ服飾史の古典が、このたびアティーナ・プレスから復刻される。アルフレッド・フラン克蘭の『私生活』史シリーズ全23巻のうち「マガザン・ド・ヌヴォテ」、すなわち「流行品店」と題された4巻である。マガザン・ド・ヌヴォテとは、消費文化の時代を迎えた19世紀のパリで流行の服飾品を売り、やがて百貨店を生む母体ともなった店舗を指す。ゆえに題目の選択はいかにも19世紀らしく、内容は流行品店の陳列棚を見るように、衣服のアイテムごとにその歴史を述べている。1894年から1898年にわたって刊行され、キシュラの著作に20年ほど遅れたが、ときにキシュラの誤解を指摘しながら丁寧に解説している。全23巻のシリーズのうち「Part 1」として今回アティーナ・プレスから刊行されるのは、この4巻に、パリの呼び売りの歴史をたどった珍しい1巻を含めた全5巻である。

著者の語りは、今さらながら風俗史を知る楽しみを教えてくれるのだが、とはいえ文書記録から文学作品まで多彩な史料の典拠を明示した手堅い服飾史である。「マガザン・ド・ヌヴォテ」第1巻は13世紀から始まるが、それも服飾産業にかかわる同業組合の規約文書がこの時代から残されるようになるからである。つまり職人の製作した服飾品から書き起こし、その服飾品にまつわる記録や描写へと史料を広げていくという手法は、憶測を許さない著者の歴史に対する態度である。私たち服飾史家はもちろんだが、広く風俗・歴史に関心のあるひとには、この領域の原点としてこの著作に戻ってみることをお勧めしたい。史料の宝庫として今さらながら発見があるばかりか、1世紀以上を経て、著作は古くなるどころか、今後の風俗史研究の展開の上でも示唆に富む。「パリの呼び売り」は、食料品の行商はもとより、掃除人の呼びかけ、遺失物や迷子の広報、また死亡通告など、中世から近代に至るまでパリの街にひびいた呼び売りの歴史を述べ、13～17世紀の8編のテキストを添えた史料集でもある。

時代を追って満遍なく解説するわけではないが、史料さえあれば些

細な付属品の説明も詳細をきわめる。しかも今日の定説として知られている時代よりもはるかに早い時期の史料の提示も少なくない。「マガザン・ド・ヌヴォテ」第1巻は、「序」に続いて「衣服」の歴史であり、今日の服飾史通史に最も近い。第2巻は、「手袋と香水」、「小間物」、「毛織物」の3部構成。手袋と香水とが組み合わされているのは、手袋製造業者が香り付けのために香水を生産していたからである。第3巻は、「染色と喪」と題された前半に、「帽子」の歴史が続く。染色と喪という組み合わせも一見して奇妙だが、要するに色彩の文化史がまとめられている。中世服飾の刊行史料として知られているドゥエ・ダルク校訂の王室会計記録から色名を拾い、15世紀の色彩論『色彩の紋章』から色の意味を語るというのは、最も基本的な作業ではあるが、とはいえ18世紀に至る400語を超える色名の集成は、今日ミシェル・バスタローの著作で注目を浴びている色彩文化史の嚆矢であるといっても過言ではない。もちろん色彩感情に踏み込んだ分析ではないのだが、収集した多彩な色名と命名のエピソードは読み物としても最高に面白い。そして第4巻は、「リンネル製品」、「靴製造」、「毛皮」、「ステッキと傘」。ハンカチや夜着が使われるようになるのは17世紀であると、私たちはノルベルト・エリアスの名著『文明化の過程』に教えられているが、フラン克蘭は16世紀の記録のなかでこれらを詮索しており、新鮮である。

さらに本書は、服飾の実態を史料にしたがって追うばかりではなく、服飾をめぐる複眼的な解釈への展開を示唆している点で貴重である。夫婦が家長権をめぐる争う《ズボンをめぐる争い》の凶像テーマは、近年のジェンダー論の展開のなかでしばしば話題になるが、それも第1巻の「衣服」の歴史のなかで既に言及されている。あるいは下着や夜着にまつわる民俗的なコメントも、文学・美術・民俗などの領域を横断する歴史人類学の新たな展開を示唆するという意味で重要である。未だ充分な研究がなされていないわけではない服飾史と風俗史の領域に、1世紀以上の時を経てなお研究の可能性を教えてくれる古くて新しい古典的著作である。

## パリの私生活 —12～18世紀のしごと・流行・風俗・慣習—

### Part 1: 服飾と「消費文化」(全5巻)

定価(本体75,000円+税)

ISBN 978-4-86340-102-0 • 1616 pp.

全5巻+別冊解説: 徳井 淑子 ●お茶の水女子大学大学院教授



### L'annonce et la réclame: Les cris de Paris (1887)

Les crieurs de corps et de vin • Les enterrements • Les cris de Paris • Index • Appendice

### Les magasins de nouveautés

(4 vols: 1894, 1895, 1896, 1898)

Introduction • Le vêtement • Éclaircissements • La ganterie et la parfumerie • La mercerie: les aiguillettes et les bretelles; les patenôtres; les fermaux; les aiguilles et les épingles; les dés à coudre; les ceintures, les demi-ceints, les boucles; les boutons; les jarrettières • La draperie: tissage et vente; opérations secondaires • Teinturerie et deuil; la Bièvre et les Gobelins • Chapellerie et modes • La bonneterie • La lingerie: le linge et les lingères; la fabrication et le commerce des toiles; le blanchissage • La cordonnerie: les chaussures; l'industrie des chaussures • Les fourrures • Cannes et parapluies • Éclaircissements

**Part 2: 料理と食事 (全4巻)** ▶2012年9月予定

別冊解説: 平野 隆文 ●立教大学教授

**La cuisine (1888)**

La cuisine du XIII<sup>e</sup> au XVI<sup>e</sup> siècle; le XVI<sup>e</sup> siècle; les XVII<sup>e</sup> et XVIII<sup>e</sup> siècles • Les mesureurs: mesureurs de grains; mouleurs de bois; jaugeurs; mesureurs de sel, d'aux et d'oignons • Éclaircissements • Index

**Les repas (1889)**

Service des mets • Service des boissons • La civilité de la table • Index

**Variétés gastronomiques (1891)**

La salle à manger et le couvert • L'heure des repas • Jeûnes et abstinences • La fête des rois • Louis XIV à table • Les cure-dents • Éclaircissements

**Le café, le thé et le chocola (1893)**

Les origines du café • Débuts du café à Paris: années 1643 à 1690 • Le café à Paris de 1690 à 1715 • Les plants de café dans Paris et dans les colonies françaises • Le thé • Le chocolat • Histoire administrative du café, du thé et du chocolat • Le café à Paris de 1720 à 1789 • Les cafés de Paris depuis le XVII<sup>e</sup> siècle • Éclaircissements

**Part 3: 学校と子ども (全3巻)** ▶2012年9月予定

別冊解説: 宮下 志朗 ●放送大学教授

**Écoles et collèges (1892)**

L'Université • L'église • Les suppôts de l'Université • La corporation des écrivains • Variétés pédagogiques • Organisation de l'enseignement au XVI<sup>e</sup> siècle: enseignement primaire, secondaire, supérieur • Organisation de l'instruction publique à la fin du XVIII<sup>e</sup> siècle: instruction primaire, secondaire

**L'enfant (2 vols: 1895, 1896)**

Le mariage: décadence du mariage; pratiques superstitieuses et croyances populaires relatives au mariage • L'accouchée: grandes dames et bourgeoises; les couches royales • Les dauphins • Le baptême: les actes de l'état civil; le cérémonial; baptêmes de rois et de dauphins • Éclaircissements • Premiers soins, berceau, layette • La nourrice: le lait maternel; les bureaux de placement; la nourrice dans la famille; les nourrices royales; nourriture et sevrage • Les premières années: l'enfant entre les mains des femmes; l'enfant entre les mains des hommes • La vie de famille • Les jouets et les jeux

**Part 4: 衛生、医療 (全5巻)** ▶2013年9月予定

別冊解説: 松村 博史 ●近畿大学教授

**L'hygiène (1890)**

État des rues • Égouts • Voiries • Fosses d'aisances • Épidémies • Cimetières • Éclaircissements • Appendice

**Les médicaments (1891)**

Les apothicaires • La pharmacologie et la thérapeutique: les médicaments en

général; les pierres précieuses; l'aimant; les bézoards; les eaux minérales; guérisons à distance; la poudre de sympathie; médicaments célèbres • Éclaircissements

**Les médecins (1892)**

Du XIII<sup>e</sup> au XVI<sup>e</sup> siècle • Du XVI<sup>e</sup> au XIX<sup>e</sup> siècle • Les saints guérisseurs • Les rois de France et les écrouelles • Éclaircissements

**Les chirurgiens (1893)**

Du XIII<sup>e</sup> au XVI<sup>e</sup> siècle: lutte des chirurgiens contre les barbiers • Le XVI<sup>e</sup> siècle: lutte des chirurgiens contre les médecins • Le XVII<sup>e</sup> siècle jusqu'à l'opération de la fistule: écrasement des chirurgiens • Depuis l'opération de la fistule jusqu'à la fin du XVIII<sup>e</sup> siècle: triomphe des chirurgiens • Les concessions royales de métiers • Éclaircissements

**Variétés chirurgicales (1894)**

La saignée • La chirurgie à l'Hôtel-Dieu • Sages-femmes et accoucheurs • Les opérateurs: les dents et les dentistes; la pierre et les hernies; châteleurs, renoueurs, oculistes et pédicures • Établissements hospitaliers de Paris à la fin du XVIII<sup>e</sup> siècle: hôpitaux; hospices • Éclaircissements

**Part 5: さまざまな日常 (全6巻)** ▶2014年9月予定

別冊解説: 福井 憲彦 ●学習院大学教授

**Les soins de toilette: Le savoir-vivre (1887)**

Bains et étuves; barbiers, coiffures, perruques, épilation; cosmétiques et fards, etc. • Éclaircissements • Index • Additions • Appendice et Avertissement

**La mesure du temps (1888)**

Clepsydras, horloges, montres, pendules, calendrier • Éclaircissements • Index

**Comment on devenait patron (1889)**

L'apprenti • L'ouvrier • Le salaire et la durée du travail • L'aspirant à la maîtrise • Les privilégiés • Suppression des communautés ouvrières • Éclaircissements • Index

**Les animaux (2 vols: 1897, 1899)**

La zoologie aux XIII<sup>e</sup> et XIV<sup>e</sup> siècles: les sources; les mammifères; les oiseaux; reptiles, poissons, mollusques; les insectes; divers • Les animaux aux XIII<sup>e</sup> et XIV<sup>e</sup> siècles • Table des animaux mentionnés • Quelques noms latins • Les animaux du XV<sup>e</sup> au XIX<sup>e</sup> siècle: les bêtes féroces; les chiens; les chats et les puces; les oiseaux et les poissons; les ménageries; les singes; les chats et le bûcher de la Saint-Jean • La corporation des oiseliers • Procès faits aux animaux • L'âme des bêtes

**Variétés parisiennes (1901)**

Noms des rues et numérotage des maisons • Sur l'emploi des mots Madame et Mademoiselle • Le pain bénit • Le viatique • Les insignes reliques des églises de Paris • Essai de statistique rétrospective: superficie; population; nombre de rues; nombre de maisons • Les armoiries des corporations ouvrières: les origines; les bannières; les Six-Corps; la noblesse commerçante • Appendice: noms étranges portés par certaines rues de Paris

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】